

■梅棹忠夫 生態学から出発、多角的・先駆的な研究から、ユニークな文明論を展開。多方面に大きな影響を与えた「知の巨人」。

うめさおただお

大暴落・・・1920＝ 京都市上京区で、梅棹菊次郎、エイの長男に生まれる。

原敬首相暗殺1921＝ 1歳：

金融恐慌・・・1927＝ 7歳：京都市立正親尋常小学校に入学、

世界恐慌・・・1929＝ **9歳**：

満州事変・・・1931＝11歳：

五一五事件・1932＝12歳：第5学年修了で、京都市立京都第一中学校に入学。博物同好会、山岳部に入部すると、

帝人疑獄事件1934＝14歳：「はやくも、山岳誌{山城三十山記上篇}に執筆し、

芥川直木賞始1935＝15歳：「{山城三十山記下篇}を編集・発行。

二二六事件・1936＝16歳：飛び級で4年で修了し、第三高等学校理科甲類に入学。山岳部に入って熱中、2年連続留年して退学処分になるも、後輩や同級生からの嘆願運動で復学を認められる。登山よりも、探検の方に関心が強く、

日中戦争始・1937＝17歳：

健保+総動員 1938＝**18歳**：

第二次大戦始1939＝19歳：「京都探検地理学会」に入会し、

大政翼賛会・1940＝20歳：山岳部員として、朝鮮の白頭山に登頂。樺太踏査隊(隊長藤本武)に参加、イヌゾリの性能調査、

日米開戦・・・1941＝21歳：京都帝国大学理学部に入学(動物学専攻)後も、ボナベ島調査隊(隊長今西錦司)に参加し、生態学的調査。

・・・1942＝22歳：「北部大興安嶺探検隊(隊長今西錦司)」に参加、支隊(支隊長川喜田二郎)の一員として脊梁山脈ぞいを踏破。

創価学会検挙1943＝23歳：徴兵検査で第一乙種合格。召集されるが、大学院特別研究生制度で延期され、卒業。卒業論文は「黒竜江上流の魚類群聚」。「大学院に進み、特別研究生となる。動物学教室第二講座で、宮地伝三郎助教授から生態学の指導を受ける。AACK(京都大学学士山岳会)、日本民族学協会(のち日本民族学会)に入会。

年金+総武装 1944＝24歳：今西錦司夫妻の媒酌で、田中幸次郎・フクの長女淳子と結婚。今西錦司らと、蒙古聯合自治政府の首都張家口に設立された蒙古善隣協会西北研究所の嘱託となり、牧畜調査、外モンゴルとの国境に達する。

敗戦・・・1945＝25歳：敗戦。無蓋貨車で張家口を脱出し天津を経て北京に移動。

新憲法公布・1946＝26歳：塘沽から米軍上陸用舟艇で帰国。動物学教室に復帰し、大学院に再入学、特別研究生(後期)となる。「早くから、ローマ字論者で、エスペ란ティストでもあり、京都帝国大学ローマ字会設立に参画、

新憲法施行・1947＝**27歳**：「ローマ字がき科学雑誌(Saiensu)創刊に参画、日本エスペラント学会にも入会。

三大事件・・・1949＝29歳：大阪市立大学理工学部助教授。京都府山岳連盟の屋久島踏査隊(隊長今西錦司)に参加。宮之浦岳に登頂。

朝鮮戦争始・1950＝30歳：「日本動物学会の大会で、生態学会の設立を提案し、

独立回復・・・1951＝31歳：

メデー事件・ 1952＝32歳：日本山岳会に入会したが、肺結核の診断を受け、自宅にて2年間の療養生活を送る。

TV放送始・・・1953＝33歳：「日本生態学会設立と同時に入会。

55年体制始・1955＝35歳：「京都大学カラコラム・ヒンズークシ学術探検隊(総隊長木原均)」に参加、モゴール族を調査研究、

国連加盟・・・1956＝**36歳**：「モゴール族探検記」。(岩波写真文庫)「アフガニスタンの旅」を刊行。

なべ底不況・1957＝37歳：第一次大阪市立大学東南アジア学術調査隊隊長。**＊{中央公論}に、ユニークな「文明の生態史観序説」発表。**

イヌタノメ研・1958＝38歳：(岩波写真文庫)「タイ〜学術調査の旅」「インドシナの旅〜カンボジア、ベトナム、ラオス」。

美智子妃・・・1959＝39歳：「『第一次主婦論争』に参戦し、{婦人公論}に「妻無用論」を発表。

安保闘争・・・1960＝40歳：「日本探検」。京都の自宅で{金曜会(梅棹サロン)}をひらく。

イタイ病始・1961＝41歳：「動物の社会干渉についての実験的ならびに理論的研究」で、京都大学から理学博士号。第二次大阪市立大学東南アジア学術調査隊(隊長四手井綱英)に参加し、北タイを調査後、単独でビルマからネパールを踏査。「{放送朝日}に「情報産業論」を発表、世界に先駆けて「情報産業」と名づけ、概念を明確化。京都大学アフリカ学術調査隊(隊長今西錦司)に参加し、タンザニアの牧畜民ダトーガ族の人類学的調査。

東京リビック 1964＝44歳：「東南アジア紀行」。小松左京らと{万国博をかんがえる会}結成。京都大学人類学研究会を創設。

大学紛争始・1965＝**45歳**：「サバンナの記録」。{日本郵趣協会}に入会。京都大学人文科学研究所助教授となり、共同研究班を組織。

いざなぎ景気1966＝46歳：加藤秀俊、小松左京と、万国博研究のためモントリオール、ニューヨークを視察。

美濃部都知事1967＝47歳：第一次京都大学ヨーロッパ学術調査隊(隊長桑原武夫)に参加。スペインのバスク地方で農村調査。湯川秀樹共著「人間にとって科学とはなにか」。**＊「文明の生態史観」が刊行され、大きな反響、論争を巻き起こす。**

震ヶ関ビル・ 1968＝48歳：京都大学大サハラ学術探検隊(隊長山下孝介)に参加。リビアで牧畜民を調査。{日本民族学会}の国立民族学研究博物館設立促進委員会委員となり、日本万国博覧会世界民族資料調査収集団を編成。

全共闘・・・1969＝49歳：京都大学人文科学研究所教授。第二次京都大学ヨーロッパ学術調査隊(隊長会田雄次)に参加。イタリアの山村、ユーゴスラビアで調査。「それまでの数多くの調査の経験から考案した情報整理法をまとめた「知的生産の技術」はロングセラーになり、「京大式カード」が商品化される。

大阪万博・・・1970＝50歳：京都大学人類学研究会が専門雑誌{季刊人類学}を創刊、編集委員になる。

石油ショック 1973＝53歳：万博跡地活用のための国立民族学博物館創設準備室長となり、

角栄金脈辞任1974＝**54歳**：「地球時代の日本人」。「国立民族学博物館創設とともに、初代館長。

グラブール事件1975＝55歳：「民族学博物館」。

田中角栄逮捕1976＝56歳：「狩猟と遊牧の世界〜自然社会の進化」。

JALバジャック・1977＝57歳：ブラジル日本移民史料館建設に関する助言のため、ブラジル訪問。「国立民族学博物館の建物が完成し、開館。広報普及誌{月刊みんぱく}が創刊され、「館長対談」の連載開始。

成田衝突・・・1978＝58歳：ブラジル日本移民70年祭委員会の名誉顧問としてブラジル訪問。

革新大敗北・1979＝59歳：{中央公論社}から「梅棹忠夫著作目録(1940〜1978)」。

貿易摩擦問題1980＝60歳：「人類学周遊」。還暦記念シンポジウム「文明学の構築のために」開催。

・・・1981＝61歳：「美意識と神さま」「わたしの生きがい論」。「美意識と神さま」で日本生活学会の第7回今和次郎賞を受賞。

中曽根内閣・1982＝62歳：初の写真展「民族学者梅棹忠夫の眼」。{日本展示学会}を設立し、会長に就任。

デイズニート 1983＝**63歳**：{千里文化財団}の会長に就任。

バブル始・・・1986＝66歳：「日本とは何か」。「ウイルスによる球後視神経炎のため失明、以後、口述筆記による著作に精を出し、

竹下登内閣・1987＝67歳：「梅棹忠夫の京都案内」「京都の精神」「博物館長の十年 国立民族学博物館の記録」「日本三都論〜東京・大阪・京都」「メディアとしての博物館」「あすの日本語のために」「日本人のこころ〜文化未来学への試み」。「朝日賞。フランスのパルム・アカデミーク勲章コマンドゥール章。

リクルート事件・ 1988＝68歳：「日本語と日本文明」「日本語と事務革命」。紫綬褒章。「30年前の「妻無用論」含む「女と文明」、25年前の「情報産業論」含む「情報の文明学」が出版されたように、その論は古びることなく、本質をついている。

昭和天皇没・1989＝69歳：「情報論ノート」「情報の家政学」「研究経営論」「21世紀の人類像をさぐる」「民博早わかり」「日本学周遊」。「闘病記「夜はまだあけぬか」。「梅棹忠夫著作集」(中央公論社)第1回配本(5年後、全22巻完結)。

ドイツ統一・・・1990＝70歳：「情報管理論」「千里ぐらし」。国際交流基金賞。

ソ連崩壊・・・1991＝71歳：「回想のモンゴル」。「文化功労者として顕彰される。

バブル崩壊・ 1992＝**72歳**：「実戦・世界言語紀行」「裏がえしの自伝」。

55年体制終・1993＝73歳：「国立民族学博物館長を退任、顧問・名誉教授。総合研究大学院大学名誉教授。{日本ローマ字会}会長。

自社さ連立・1994＝74歳：「文化勲章。

オウム事件・1995＝75歳：日本山岳会名誉会員。京都市名誉市民。

・・・1996＝76歳：京都大学名誉教授。

金融破綻・・・1997＝77歳：「行為と妄想〜わたしの履歴書」「世界史とわたし〜文明を旅する」。

石原都知事・1999＝79歳：「勲一等瑞宝章。

・・・2000＝80歳：「近代世界における日本文明〜比較文明学序説」。

小泉9.11テロ2001＝**81歳**：

イラク戦争・2003＝83歳：{西堀栄三郎記念探検の殿堂}に探検家として顕彰される。

リマンショック・ 2008＝88歳：米寿記念シンポジウム「梅棹忠夫の世界」開催。

民主党政権・2009＝89歳：「山をたのしむ」。国立民族学博物館から「梅棹忠夫著作目録(1934〜2008)」。

・・・2010＝**90歳**：{梅棹忠失・山と探検文学賞}創設。老衰のため自宅で、**没した。**

イスラムに共感示し、日本中東学会初代会長。世界エスペラント協会の名誉委員でもあった。

KAWADE夢ムック「梅棹忠夫(地球時代の知の巨人)」, Wikipedia,